

中世の粟田遺跡

武家政権の時代である中世にも、粟田地域には人々の営みがみられました。

粟田遺跡の南東部で、13世紀の鎌倉時代から16世紀の戦国時代にかけての集落跡が見つかりました。発見された集落の地盤は、石礫じばん いしれきが堆積する極めて足元の悪い場所でした。生活には不便であったと思われませんが、これは、周辺地域の耕作地に適した土地を少しでも確保するための措置そちであったと考えられます。

集落内には、住まいとなる掘立柱建物や、倉庫及び作業場と推定される竪穴状遺構たてあなじょういこうを確認しました。飲み水は河川かせんを利用して確保していたと思われ、井戸は発見されませんでした。

出土品は、土師器はじきさら皿すす、珠洲焼やき・越前焼えちぜんやきの甕かめや壺つぼ、すり鉢ばちなどの日常容器や囲炉裏いろりの縁ふちに利用した炉石ろいし、鉄製品などを研いだ砥石といしなど、生活に必要な道具が多く見つかりました。



越前焼壺出土状況



石礫の上で見つかった集落跡



堅穴状遺構（基礎と思われる石が一行にならんでいます。）